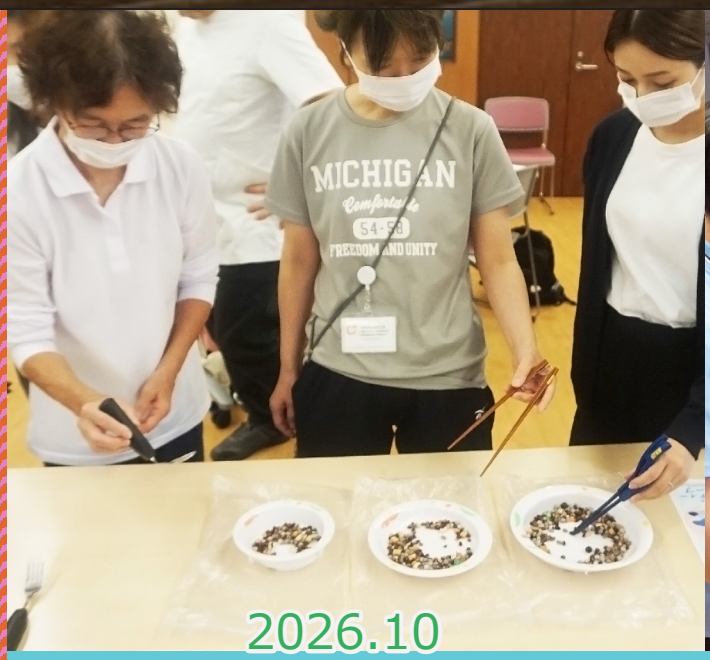
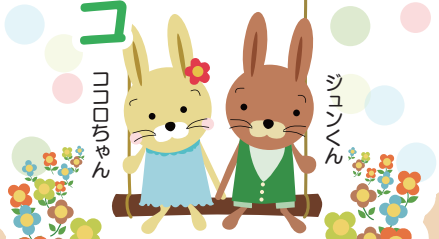




2026.10

54 あき号

うさぎのブランコ



〔開催報告〕

令和8年度丹後圏域地域リハビリテーション支援センター
・セラピスト連絡会
・看護職・介護職等リハビリテーションステップアップ研修会
「摂食嚥下」「トランスファー」
「環境調整」「ポジショニング」





LINE 公式アカウント
友だち募集中
@513gckqy

主催研修会情報・活動紹介等の
最新情報を発信します



丹後圏域地域リハ支援センター 公式 LINE

LINE

公式 Instagram

TANGOREHA

第35回 丹後圏域地域リハビリテーションセラピスト連絡会

日時：令和8年7月29日（水）16:30～18:00　場所：丹後中央病院 ふたばホール　参加者：20名

今回の連絡会では、これまでの地域リハビリテーション活動を振り返るとともに、「限られた支援体制の中で、丹後圏域の地域リハビリテーションをどのように維持・発展させていくか」をテーマに参加施設から地域活動、障害福祉、小児リハ、人材育成などの取り組みや課題について報告いただき、意見交換を行いました。

それぞれの施設で行われている地域での取り組み

今回の意見交換では、各施設から、日頃どのような形で地域に関わっているのかを紹介していただきました。

病院では…

介護予防教室や健康教室、地域サロンへの講師派遣、社会福祉協議会事業への協力、地域ケア会議への参加など、地域の健康づくりや介護予防に関する活動が行われています。また、退院前訪問指導や学校・福祉事業所との情報共有・支援会議への参加など、医療機関の中だけでは完結しない支援にも取り組まれています。

医療機関の中だけでは完結しないリハビリテーションとして、

実習生や学生ボランティアの受け入れ、訪問リハビリテーションの見学など、次の世代を育てる取り組みも各施設で行われています。

介護・福祉施設や訪問系の事業所では…

発達障害や発達特性のある子どもへの支援、学校との連携、訪問リハビリテーションによる小児への支援などが行われています。中には、学校卒業後の生活を見据え、関係者と協力しながら支援体制づくりを進めている事例もありました。

他にも…　地域包括支援センターでリハビリテーション専門職として活動しながら出前講座や生活支援体制整備事業に関わる事例や、地域に開かれた事業所を目指して「まちかど保健室」を予定している事例も紹介されました。

このように、丹後圏域では、病院、施設、訪問系事業所、地域包括支援センターなど、それぞれの立場から地域を支える取り組みが行われています。



地域で活動するために、乗り越えていく課題

さまざまな取り組みが紹介される一方で、各施設が抱えている共通の課題も見えてきました。

通常業務と地域活動の両立

最も大きな課題の一つが、日々の業務と地域活動をどのように両立するかということです。
「地域活動に参加したい」という思いがあっても、人員不足などによって地域活動へ職員を送り出す余裕がないという声がありました。また、地域活動への理解や支援体制が院内・法人内で十分ではないという課題も挙げられました。

障害福祉・小児リハへの対応

障害福祉・小児リハについては、ニーズがある一方で、対応できる施設や人材が限られていることが課題となっています。
医療・福祉・教育の関係者が継続的に連携していく必要がありますが、連携のための時間を確保することや、継続的な多職種連携をどのように進めるかについても課題が挙げられました。

地域活動を担う人材の育成

地域活動を経験する機会が少ない中で、若手職員をどのように地域へ送り出していくかも重要なテーマです。地域活動を担える人材を育てるには時間がかかるため、見学や参加などの経験を積み重ね、長期的な視点で育成していく必要があります。

「それぞれの強み」をつなぎ、地域全体で支える

今回の意見交換を通して見えてきたのは、各施設が同じ活動をするのではなく、
それぞれの施設が持つ専門性や経験を生かして地域に関わっているということでした。

健康づくりや介護予防を得意とする施設、障害福祉や小児分野で経験を積んでいる施設、訪問リハビリテーションを通して生活の場を支えている施設、地域ケア会議や生活支援体制整備事業など、行政・福祉分野とのつながりを持つ施設など、その強みはさまざまです。

今回の連絡会では、地域リハビリテーション活動への協力意向を持つ施設が多い一方、人員不足や通常業務との両立、障害福祉・小児リハの体制、人材育成など、地域全体で考えていく課題が共有されました。

地域リハビリテーション支援センターでは、今後も圏域内の施設や関係機関をつなぎ、それぞれの専門性や強みを生かしながら、「地域で暮らす人を、地域全体で支える」ためのつながりづくりを進めていきます。今回の連絡会で生まれた情報交換やつながりを、日々の支援や次の取り組みへつなげていきたいと思います。

丹後の地域リハビリテーションを、みんなで一緒につくっていきましょう。

令和８年度丹後圏域地域リハビリテーション支援センター

看護職・介護職等リハビリテーションステップアップ研修会

「リハビリテーションの視点を持って活躍できる 看護職・介護職等養成研修　摂食嚥下、トランスファー」

日時：令和8年9月9日（水）10:00～17:00
場所：宮津市福祉・教育総合プラザ　　参加者：23 名

講義・実技

テーマ
「摂食・嚥下」

公益財団法人 丹後中央病院
言語聴覚士
西村泉奈 氏



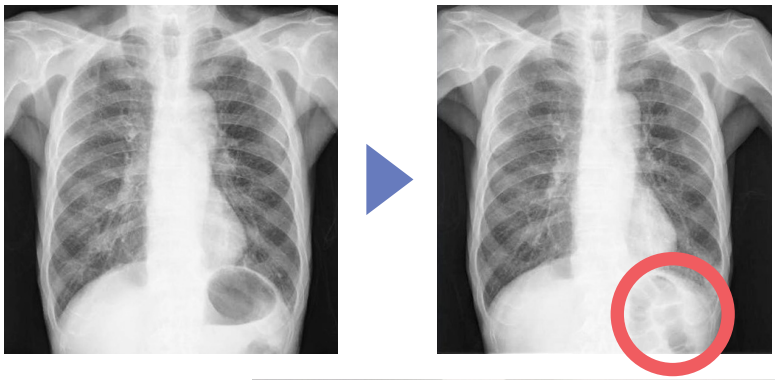
学

摂食・嚥下についての基礎知識や正しい食事姿勢、食事介助や口腔ケアの方法を講義して頂きました。誤嚥の危険性を学び、トロミ水体験、食事のポジショニング体験をしてもらい、利用者様への介助する際のポイントを学びました。

「食べる」に潜む危険　～摂食・嚥下障害とは～

・窒息：気管を食べ物や異物が塞ぎ呼吸できなくなる
・誤嚥：食物が声門を越えて気道に入ること
・誤嚥性肺炎：食べ物や、口の中の菌が肺に入り、肺炎をおこす

高齢者の肺炎の
1/3 が誤嚥性肺炎と
言われています

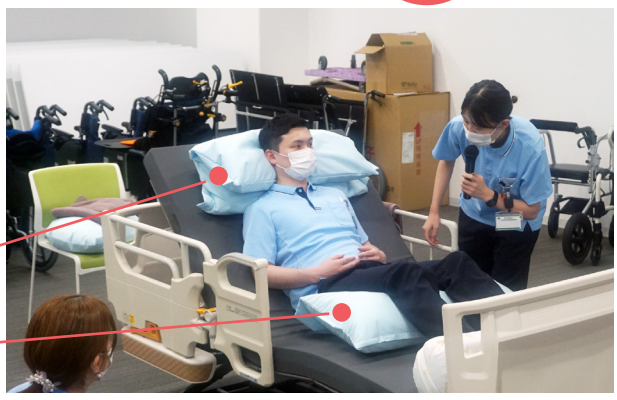


誤嚥を防ぐために …

■ 食事のポジショニング体験
姿勢による飲み込みの違いを体験しました

point

・首が後ろに反らないように枕の高さを調整
・ずり落ちないように膝を高くし、
　足底をクッションなどで支える



■ トロミ水体験

緑茶、リンゴジュース、乳酸菌飲料とそれぞれのトロミの付き方や味の感じ方の違いを体験しました

なぜとろみが必要か

・水分が喉へ流れ込むスピードを遅くする　・口の中でまとめやすくし、飲み込みやすくする





実は、、、
乳製品や果汁飲料はトロミがつきにくい
そんな時は「**2度混ぜ法**」がおすすめ



「2度混ぜ法」

① とろみ剤を入れて30回以上かき混ぜる
② 5～10分程度おいておく
③ 再度30回以上かき混ぜる

食事介助の基本



point

・対象者よりも低い位置に座る
・スプーンは水平に入れ、水平に引き抜く

注意点

・眠気がある時は中断する
・飲み込みを確認してから次の一口にうつる

口腔ケアはなぜ必要か

- **唾液中の細菌を減らし、誤嚥性肺炎になるリスクを下げる**
- **口の動きや口腔への刺激によって嚥下機能の向上や脳機能の活性化につながる**

▶理想的なタイミングは食事の前・後に行う事が推奨されています

福祉用具の紹介　㈱三笑堂 より

9月9日のステップアップ研修会では、株式会社三笑堂様より福祉用具等のご協力をいただき、施設で利用できるお勧めの歩行器を紹介して頂きました。





講義・実技　テーマ「トランスファー」



公益財団法人 丹後中央病院
理学療法士
佐藤一喜 氏

学

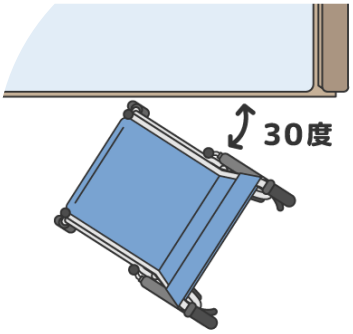
移乗動作（トランスファー）について、「なぜ移乗を行うのか」という基本を参加者の方に振り返った上で、基本的な移乗からトランスファーボードなどを使用した様々な方法を実技を交えながら講義して頂きました。

移乗動作（トランスファー）とは

移乗動作の手順：座位→立つ→方向転換→着座 の繰り返し
特に「立つ」、「方向転換」の介助量が大きい

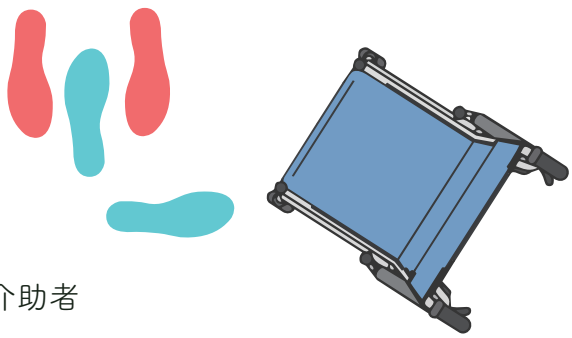
移乗動作point①

車椅子の位置と介助者の立ち位置
車椅子はベッドに対し30°



移乗動作point②

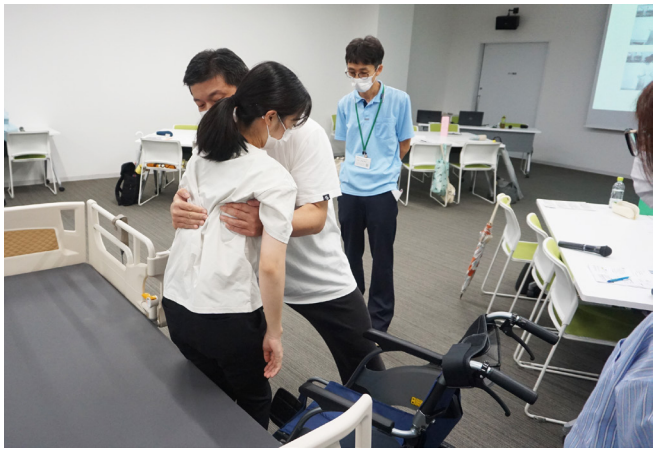
車椅子の位置と介助者の立ち位置
介助者のつま先を車椅子に向ける



実技

車椅子移乗に関する様々な介助方法を指導して頂きました。
グループ内でもお互いにアドバイスを行いながら練習を行いました。





移乗動作だけでなく、ベッド上での介助方法や、トランスファーボード、
スライディングシートなどの福祉用具を活用した介助方法も学びました。





参加者の感想

初めてとろみをつけた飲み物を飲んでみてこんなにも飲みにくいんだと感じました。できるだけ味がある方が飲みやすいと教えてもらったことはあるのですが、実際に体験することでご利用者の気持ちに近づくことができたかなと思います。

移乗に関して、知識として知っていることと、実践でしていること、うまくできなくて悩んでいることを口に出したり、体感でき良かったです。

実践でとろみのついたものを飲んで味の違いや感覚を感じたり、移乗を実際にやってみて、学んだ知識を行動につなげることができた。

これからのケアでも取り入れられる事が沢山学べたのでケアの実践をするとともに、仲間にも伝達できればなと思います

令和8年度　丹後圏域地域リハビリテーション支援センター
看護職・介護職リハビリテーションステップアップ研修会

「リハビリテーションの視点を持って活躍できる 看護職・介護職等養成研修　環境調整、ポジショニング」

日時：令和8年9月16日（水）10:00～17:00
場所：丹後中央病院　ふたばホール　　参加者：28名

講義・実技

テーマ
「環境調整」

介護老人保健施設　リハ・ヴィラなぎさ苑
作業療法士
今西清香 氏



学

「環境調整」をテーマに住環境整備や福祉用具についての基礎から実際の支援につながる考え方まで学びました。講義だけでなくさまざまな車いすや自助具などを実際に体験し、対象者の生活に合わせた住環境調整や福祉用具選定のポイントについて理解を深めました。

住環境調整とは・・・

その人らしい生活を続けるために住み慣れた場所で安心して暮らすために環境を整えること

▶ **その人の暮らしから環境を考えることの大切さを学びました！**

環境調整で悩んだ経験や工夫したことについてグループで意見交換





それぞれの経験やアイデアを共有！

自助具とは・・・

日常生活の中で「やりにくい」「できない」と感じる動作をその人の力を活かしながら補うための道具



**実際に自助具や
福祉用具を体験！**



見て・触れて・使って学ぶ！

福祉用具の考え方

福祉用具は「できない」を補うだけじゃない

- その人が持っている力を活かす
- 「やりたい」「続けたい」暮らしを支える
- 介助する人、される人双方の負担を軽減する

生活環境や身体状況に合わせて選択する

参加者の感想

自分の現場は用具が少ないと思っていたが、訪問サービスの人の話を聞いていると、入所施設である自分の現場の用具の豊富さなどを感じた。自分の現場のことについてもっと知り、活用方法を考えれば、さまざまな可能性を広げられると感じた。

実際に体験してみてたくさんの福祉用具があると勉強になりました。

福祉用具の紹介

（株）石坪　京丹後営業所より

9月16日のステップアップ研修会では、株式会社石坪様よりご協力をいただき、車椅子や歩行補助具の体験をさせて頂きました。





講義・実技

テーマ
「ポジショニング」

看多機しずちゃんハウス
理学療法士
岡野 光朗 氏



学

ポジショニングの目的や基本的な考え方、安楽な姿勢をつくるためのポイントについて、講義と実技を通して学びました。実技では、不快な姿勢と適切に調整された姿勢の両方を実際に体験。さらにグループで意見を出し合いながら対象者一人ひとりに合わせたポジショニングについて考えました。

ポジショニングの定義

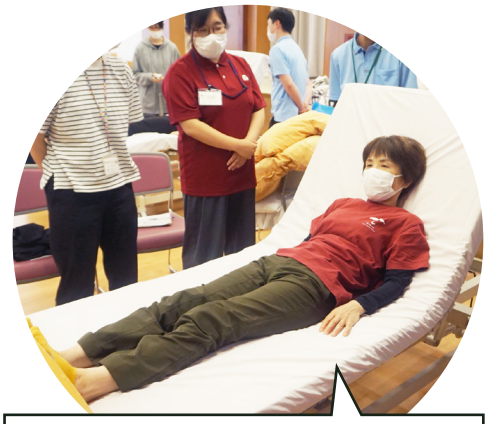
運動機能障害を有する者に、クッションなどを活用して身体各部の相対的な位置関係を設定し、目的に適した姿勢（体位）を安全で快適に保持すること

実際に体験して「心地よい姿勢」を考える!



実際に体験して
「心地よい姿勢」を考える!

不快な姿勢を体験



「苦しい」「つらい」
の意見が多い!

適切なポジショニングを体験



除圧したりや位置を
少しずらすだけで全然違う!

みんなで考える「快適な姿勢」

ポジショニングの目的

快適で安定した姿勢や活動しやすい姿勢を提供する事で

- 床ずれ（褥創）の防止
- 摂食・嚥下機能の維持、促進
- 呼吸・循環機能の維持、促進
- 筋緊張の緩和と関節の変形拘縮の防止
- 安楽でリラックスした姿勢の提供

などにより「長期臥床の弊害」を防止すること

快適な姿勢に調整って何だろう?

目的にかなう様、体位変換を行ない、尚かつ不快な部分を解消し、その姿勢が快適となるように整えること

「この人にとって楽な姿勢って?」
実際の事例をもとに、身体の状態や生活場面を考えながら、グループでポジショニングを検討しました。

▶ それぞれの工夫や考えを発表！　グループを越えてアイデアを共有しました





意見を交わすことで「その人にとっての快適さ」を考える大切さを学びました。

参加者の感想

再度、不適切な姿勢も体験することで利用者の気持ちもしれました。また、ポジショニングに正解はないが、快適な姿勢を考えて、クッションで体位調整する難しさや共有する難しさを知りました。

ポジショニングは知らなかった事を新たに学ぶ事ができた事、実技でグループの方が本音で感想を伝えてくださったおかげでもっと安楽な姿勢を追求したいと思えた。

事例検討会の案内

第１回「生活支援体制整備事業へのリハビリテーション専門職の関わり」
令和８年度丹後圏域生活支援体制整備事業連絡会 合同開催

開催日時　令和8年12月4日（金）10:00～12:00　（受付：9:45～）

場　　所　京都府丹後保健所　講堂

対 象 者　リハビリテーション専門職、生活支援コーディネーター（SC）
社会福祉協議会職員、市町担当者等

内　　容
① 情報共有　「各市町の活動状況」
② 実践報告　「伊根町におけるリハビリテーション専門職の
生活支援体制整備事業の活用について（仮）」
「与謝野町におけるリハビリテーション専門職の
生活支援体制整備事業の関わりについて（仮）」
③ 情報交換　参加者の各立場から生活支援体制整備事業での
リハビリテーション専門職の活用を考える。

応募フォーム
はコチラ ▶

第２回「発達障害児・者へのリハビリテーション支援」

開催日時　令和9年1月20日（水）17:30～19:00　（受付：17:15～）

場　　所　公益財団法人丹後中央病院 ふたばホール、
WEB（ビデオ会議ツールZOOM）ハイブリッド形式で開催　※会場参加を推奨します

対 象 者　丹後圏域において、発達障害のある人に関わる、または今後関わる可能性のある
リハビリテーション専門職を中心とした医療・福祉・教育・保健・行政等の関係者

内　　容
① 実践報告「発達障害児・者へのリハビリテーション支援（仮）」
② 情報交換：参加者の各立場から発達障害児・者へのリハビリテーション支援を考える。

応募フォーム
はコチラ ▶

演題募集の案内

令和8年度丹後圏域地域リハビリテーション実践交流会　お気軽サミット

開催日時：令和9年2月22日（月）15:00～17:00

場所：丹後中央病院 ふたばホール（対面形式で開催）

演題応募締め切り：令和8年12月11日（金）

応募フォーム
はコチラ ▶

お気軽サミットは、日頃の取り組みを気軽に持ち寄り、みんなで学び合う場です。
リハビリテーションの視点で取り組まれている日々の実践を発表してみませんか？

編集後記

今年度も「うさぎのブランコ」を発行することができました。セラピスト連絡会では、「丹後圏域の地域リハビリテーションをどう維持・発展させるか」をテーマに、皆さまと情報交換を行いました。また、９月には悪天候の中、ステップアップ研修会を無事２回開催することができ、多くの方にご参加いただきました。研修後には、「学んだことを実践したい」「施設・事業所内で共有したい」との声も寄せられています。ご参加・ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。今後も学び合い、つながる機会を通して、丹後圏域の地域リハビリテーションの活性化を目指してまいります。来年２月には「お気軽サミット」を開催予定です。皆さまの日頃の取り組みを発表する機会として、ぜひ演題をご応募ください。(H.S)

「丹後地域リハ」で検索！

編集/発行：丹後圏域地域リハビリテーション支援センター（公益財団法人丹後中央病院）
連絡先：TEL0772-62-8301 FAX0772-62-8302 / e-mail tango-rehabili-shien@tangohp.com